

<横浜市議員（旭区選出）古川なおきの活動報告>

第45号
2004年11月15日
一月刊



古川なおきレポート

古川レポート編集部 〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘252-50
TEL.045-391-4000 FAX.045-366-9700 naoki@furukawa2002.com



新潟県中越地震を考える



小千谷市内の陥没した道路



活躍する横浜市の給水車



小千谷市内の倒壊した家屋

10月31日に震災後間もない十日町市と小千谷市へ、私は自民党横浜市会議員団を代表し、中田市長と各党派の代表と一緒に現地入りしました。

今回は①被災状況の確認②本市の施設である群馬県昭和村の赤城林間学園で被災者を受け入れることを被災者の方に周知すること③被災者救援のため現地に派遣されている横浜市の職員を激励することが目的です。テレビや新聞で見るとは違い、復旧されていない被災状況を目のあたりにし、災害の恐ろしさを実感しました。十日町市では、少しづつ落ち着きを取り戻しつつありましたが、小千谷市の状況は写真のように道路が陥没していたり、水道水は全世帯断水のまま、倒壊家屋も多く深刻な状況で避難所で生活されている方々も疲労が重なっていました。

横浜市では水缶や乾パン、米など救援物資を提供するとともに、消防ヘリや緊急消防援助隊、看護士や倒壊建物等の応急危険度判定士などの職員を派遣し、復旧支援に全力で取り組んでいます。現地の本市水道局職員を激励させていただきましたが、朝から深夜まで頑張っていました。ために働いている姿には頭が下がります。

夕方には48名の小千谷市の被災者を本市交通局のバスで赤城林間学園に迎え入れることができました。宿泊だけでなく、日帰り入浴や洗濯などの「災害デイクエアサービス」も実施しますので、長い避難所生活が続いている被災者の方の気持ちも少し癒されればと思います。

現地の被災者の方からは、全国から救援物資が集まっても人手が足りなくて配布が間に合わないことやボランティアがいても指揮をする人がいない問題点、自衛隊が頼りになること、震災直後は電話が繋がりにくいので友人のお見舞い電話はかえって迷惑になることなどお話を伺いました。

避難所生活が長期になると、毎年の豪雪に耐え、普段から地域で協力しながら生活されている方々でも高齢者と若者の生活様式の違いなどから様々な問題が出てきます。隣近所のお付き合いが少ない都市部では、平素からの「地域の連帯」が特に大切だと思いました。防災だけでなく防犯対策でも「地域の連帯」が大事です。横浜市の行政をチエックする議会の一員として、今回の経験や新潟県中越地震の教訓を今後活かさなければならぬと強く感じました。

現在も多くの方が長期の避難所生活を強いられる中、病気の方や子どもや高齢者の方が心配です。被災者の皆さんが一日も早く普通の生活に戻れることを心よりお祈りいたします。

横浜市議員 古川直季

古川なおきプロフィール

昭和43年8月31日横浜市生まれ 36才
 県立希望ヶ丘高校卒業
 明治大学政経学部卒業
 横浜銀行勤務後、議員秘書となる
 平成7年横浜市議員初当選(26才)
 自民党横浜市支部連合会副幹事長
 平成16年度市民建築常任委員会副委員長
 平成16年度情報化社会推進
 ・危機管理対策特別委員会
 希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会評議員
 旭区スポーツダンス協会顧問
 旭区サッカー協会顧問
 横浜青年会議所(JC)
 日本動物福祉協会横浜支部支部長
 鶴ヶ峰商店街協同組合顧問
 卓球本間クラブ所属

新潟県中越地震における 横浜市の主な対応について

消防局	消防ヘリの派遣、隊員の派遣延べ約50名
総務局	職員の派遣、物資の提供（おかゆ4800食、アルファ米3300食、乾パン5000食） 義援金（募金箱）の募集（各区役所等）
衛生局	医師、看護師、保健士等の派遣
福祉局	ホームヘルパーの派遣、見舞金の贈呈（新潟県知事宛100万円）
水道局	物資の提供（水缶・携帯用ポリタンク各5000、水道局緊急車2台 はまっこどうし600ケース） 派遣隊（職員約150名、圧力式給水車4台、緊急車5台）
下水道局	職員の派遣
道路局	調査員の派遣
環境事業局	物資の提供（災害用トイレ3基、トイレ組み立て指導員の派遣、 簡易式トイレパック19200個、ワッチ式組立テント及び仕切り各50個）
建築局	応急危険度判定士の資格を有する職員の派遣
教育委員会	交流活動を行っている学校への支援活動（励ましの手紙等） 教職員のボランティア休暇の承認、募金活動等
（総務局 交通局 教育委員会）	赤城林間学園での被災者の受け入れ、被災者の輸送 11月2日現在の受入状況・・・小千谷市の58世帯138名を受け入れています。

新潟県中越地震災害義援金の受け入れ

郵便振替の振替口座 00510-8-725 新潟県災害対策本部

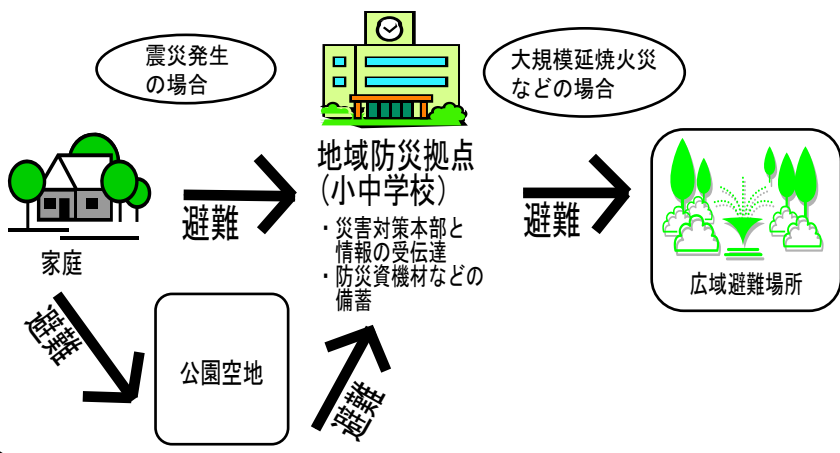
（注）窓口での振替手数料は無料です。

（ATM及びインターネットバンキングでの振込は有料となります。）

地震がおきたらどうする？

旭区防災計画改訂版より

震災時における避難方法



どこに避難するの？

- 1. 家にとどまる**
自宅建物が火災やや倒壊の危険がないときは、あえて避難の必要はありません。（状況に応じて下さい）
- 2. 近所の空き地・公園へ**
大地震が発生したら、指定された小中学校に限らず、近くの学校、公園、広場など安全な場所に避難
- 3. 広域避難場所**
地震により大火災が多発し延焼拡大した場合、熱や煙から生命、身体を守るため一時的に避難

地域防災拠点（区内37ヶ所）備蓄資機材、食料等一覧

<救助用品>

発電機	5台	大なた	5本
投光機	5台	のこぎり	5本
担架	10本	金属梯子	1本
ポール（応急担架用）	10本	ハンドマイク	2個
つるはし	5本	エンジンカッター	2台
大ハンマー	5本	油圧ジャッキ	1台
スコップ	5本	ヘルメット	10個
ロープ	5本	掛矢	2個
テコ棒	5本	大バール	5本
ワイヤーカッター	5本		

<救護用品>

リヤカー	2台	簡易トイレ（和式）	1台
ろ水機	1台	簡易トイレ（洋式）	1台
給水用水槽	1台	簡易トイレ（バック式）	6個
グラウンドシート	10枚	松葉杖	5組
毛布	20枚	保温用シート	50枚

<生活用品>

高齢者用紙おむつ	210枚	生理用品	425個
乳幼児用紙おむつ	1,350枚	トイレトペーパー	192個
移動式炊飯器	各小学校1台	ガスかまどセット	各中学校1組

<食料>

水缶詰	約3,000缶
乾パン	約3,000食
おかゆ	約200食
粉ミルク	40缶
哺乳瓶	40本

家庭内備蓄として一人当たり1日3リットルの飲料水のご用意を！